

## ■■■ 日本移民史と現在のブラジルの状況 (2) ■■■

## ◆日本からブラジルへと渡った子どもたちの様子

以上のような歴史をたどり、様々な事情のなか、ブラジルから日本へ渡り、そして再度、日本からブラジルへと渡った子どもたちや、その両親に対するインタビューをおこないました。地域によっては、日本から帰国してくる子どもたちへの関心は高く、この調査に関する新聞記事が一面で取上げられることもありました。

さて、子どもたちにとって日本での教育経験は、様々な意味を持っています。例えば日本の学校での掃除の時間や、班行動、様々な行事はブラジルの学校にはないもので、これらを懐かしむ声がよく聞かれました。ブラジルの学校のおおらかさを喜ぶこともあれば、日本のように、少しくらい「厳しい」ほうがいいと感じる子どもたちもみられます。

日本のことを忘れたと話す子どもがいる一方で、ブラジルの教育に肌が合わないと話す子どもたちもいます。子どもたちにとって、現在の状況に適應する以外の選択肢がほとんど存在していない以上、日本での経験を総動員して、新たな環境に馴染もうと努力するしかありません。

子どもの学齢にあわせてブラジルへ渡った場合、ブラジルへの学校へ適應しやすくなるケースがみられました。また、現在日本に数多くあるブラジル人学校に通っていた生徒は、言葉や文化といった点で、あまり苦労することなくブラジルの教育へと馴染むことができるようです。しかし、日本においてブラジル人学校に通うことは容易ではありません。全国どこにでもあるわけではありませんし、両親にとってブラジル人学校の学費の問題は大きく、給料のほとんどが教育費になっていたという方もいます。

他方、日本の公立校出身の子どもたちにとって、ブラジルでの生活は特に言葉面で大きく苦労している場合がみられました。もちろん、日本で知り合うことができた友人や教員との出会いや、日本での生活経験は、子どもたちにとって忘れがたい物であり、これをバネにブラジルの学校でがんばっていると話す場合も聞かれます。子どもたちが思い出す話題として、公立学校の中には通訳や補助教員をつけるなどの支援があり、助けられたということがあります。日本との絆が深ければ深いほど、「みんなと一緒に受験したかった」「修学旅行に行きたかった」と聞く場合もありました。

ブラジルへと帰国してきた子どもたちを、一概にして言うことはもちろんできませんが、子どもたちは自分の選択以外の要因、家族の仕事の都合や経済状況、日本の学校文化への適應状況がその後のブラジルでの生活に大きく影響を与えています。ただし、特に大きな影響を与えているのは家族の経済的状況です。

世界的な不況の影響は著しく、特に2008年12月以降、失業した人の多くがブラジルに帰国しています。なかでも子どもの高校受験を前に、日本での長期滞在を準備していたにもかかわらず、今回の不況で職を失い、帰国を選択しなければならないケースがありました。親の都合に振り回されると俯く子どもと、悔しさを滲ませる両親たち。激変した生活状況に追われるように帰国したものの、ブラジルで仕事を見つけられるわけでもありません。さらに、両親が日本に残り子どもだけがブラジルに帰国するケースもあります。不慣れな環境で、祖父母や親戚と暮らすため、人間関係をつくるのが難しい子どもたちもいます。

ブラジルでも帰国してくる日系ブラジル人の子どもたちへ関心を持ってサポートを試みる団体もありますが、帰国者の実数の把握が難しく、対応策を模索しているというのが現状です。「行きたくもないのに行かされた」として「日本」や「ブラジル」にネガティブな思いを抱いている子どもたちもいます。一方で、親に言われて日本に渡り、またブラジルに帰ることになったとある高校生は、苦労したけれど話しながら「けど、日本にもブラジルにも感謝している」と話してくれました。こうした状況を見るに、よりいっそう両国の教育の違い、つまり文化や制度への関心を深め、両者の間での連

携を密にしていく必要があるといえます。

国家間を移動する子どもたちは、非常に厳しい状況で生活することを強いられます。しかし、それを乗り越えたとき「苦しかったけれど、今では」というように「苦勞」や「ちがい」を力にする語り直しの可能性も内包しています。移動をひとつのチャンスとして受け止めることができるかは、子どもたち一人一人の問題ですが、それ故に一人一人に向きあう教育や社会のあり方を考えねばならないと思われます。(大阪大学大学院 山本晃輔)

---

## ■■■KFC日本語プロジェクト■■■

### ◆KFCで支援を始めて

処分不能の粗大ゴミから一念発起、昨年5月の日本語講座(初級)を受講し講師の齋藤先生の熱意に背中を押され、9月より日曜クラスに参加しました。教え方はまだまだですが、学習者の方が言葉で苦勞がなくなるようお役にたてたらと願っております。(坂田 稔)

人と関わることは、新しい目を開くことだと思います。自分の親しんできた文化を、違う文化背景を持つ人の目線で見ると知った驚きは、とても新鮮でした。私も誰かの新しい目を開くために、日本語を、日本文化を伝えていきたいと思います。(多賀 知子)

教育実習以来、何十年ぶりに「教える」ということを「学んで」います。新しい出会いと経験から私が教わることの多い日々です。

無理せず背のびをしないで、私のできることを続けることが、お役にたてばと思っています。(湊 信子)

「日本語教師を目指すきっかけとなった御団体に是非貢献したい!」との思いで始めた活動ですがスタッフや学習者の方々との出会いを通し、教えることは学ぶことだと気付かされました。この出会いに感謝し日々精進していきたいと思っています。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。(村中 隆子)

### ◆3月研修会～挫折しないカタカナの学習

3月14日の研修会では藤川多津子先生に「挫折しないカタカナの学習」ということでお話いただきました。通信・交通の技術が発達し、いろんな意味でボーダレスの今の時代私達のまわりはカタカナがあふれています。

最初にカタカナで表記するものを話され、次ぎに日々読んでいる新聞の中から<ソウルからの特派員メモ> <アラフォー男性メタボ警戒>などをプリントしたものを参考にして、漢字仮名交じりの文の中のひらがな、カタカナとそれぞれに注目してカタカナの重要性を教えてくださいました。

文の中の漢字とカタカナの文字を黒く墨で塗ってひらがなだけを残した文章を見ても、何のことが書いてあるかぜんぜん理解できないのですが、漢字とひらがなを消してカタカナだけ残っている文章は大体的な内容が掴めるのです。なぜ?それはカタカナは名詞を表すものが多いということです。カタカナだけでも読めればかなり内容が把握できるというわけです。日本語のテキストがひらがな表記であるのでいたしかたのないことですが、日本語の学習における読み書きは必ずしもひらがなからと決めてしまうこともないようです。

外来語は外国語か日本語か?外来語が日本語になっているものは英語圏の人たちには似ているが妙なるもので、発音も表記もむずかしいものです。日本語にない音をそのまま日本語の文字に置き換えることは不可能です。その時には・・・カタカナを改めて見直した日になりました(高橋 博子)

## ■■■ K F C 外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

### ◆新年度が始まりました。

2009年度、また新しい1年が始まりました。

2008年度は、中学3年生で高校受験を控えた学習者が多く、支援者も学習者もみんながそろって「どうしよう…大丈夫かなあ…?」「期末テスト、あかんかった…。やばい…。」とハラハラした1年を過ごしました。しかし、喜ばしいことに全員が見事に高校合格を果たし、新たな1歩を踏み出すことができました。

「今年は中学3年生が多かったから、春からは学習者が減るなあ。」と新年度が始まるほんの数週間前までは思っていたのですが、彼らの卒業と同時にまた新たな学習者が増え、にぎやかな春を迎えました。この春に卒業した学習者が11名、増えた学習者が6名です。

昨年度と大きく異なるのは、小学生の学習者が増えたことです。特に、来日したばかりでまだ日本語がわからない小学生の割合が多く、みんな「ひらがな」からのスタートです。まだまだ周りに馴染めず、子どもたち同士での交流といったことがなかなか難しい段階ですが、KFCに通い始めて1カ月近くが経ち、ようやく学習教室へ来ることに慣れ始めたようです。少し緊張が解けたようで、笑顔を見せてくれたり、これまでは拒否していたおやつやジュースも進んで取りに行くようになりました。今後は、普段の学習時間に何か他の子たちと一緒に取り組める活動をしたり、みんなで楽しめるイベントを企画するなど、言葉がわからなくても“勉強”以外のことでKFCへ来る楽しみを作ってあげられたらと思っています。

また、今年度は新たに事務所の隣の部屋を借りることができ、これまでとは違った広い場所を子どもたちのために用意することができました。新しい部屋での勉強が始まってからまだそんなに経っていないので、子どもたちは何だかそわそわして落ち着かない様子です。なかなか勉強に集中してくれないのは困り者ですが、こちらの部屋は窓が多く、とても明るい部屋です。子どもたちが過ごすにはとても良い場所だと支援者の方々も喜んでくださっています。事務所から引っ越しをしたばかりなので、まだ整理されておらず、ひとまずは環境づくりが急務といったところです。子どもたちと支援者の方々が気持ちよく過ごせる環境づくりを目指してがんばりたいと思います。

今年度からは、この活動開始当初からボランティアとして関わってくださっていた矢根さんが、新たにスタッフとして参加して下さることになり、担当するスタッフが増えました。ずっと一緒に子どもたちを見てきてくださった方なので、非常に心強く思っています。私が木曜日の学習支援活動を担当し、矢根さんが火曜日、トラン ティ ティエン アンさんが月・水の活動を担当して下さることになったのですが、今後は他の曜日にも新たにスタッフが加わることになっています。

新しい学習者やスタッフの参加、新しい教室への移動と、この春はバタバタと通り過ぎていってしまいそうですが、とても良いスタートが切れたと思っています。これまで以上に活動が活発になり、勢いがついていることを感じています。この勢いに乗って、活動を拡げることもちろん大切ですが、子どもたちや支援者の方々と、楽しく笑顔で過ごしていきたいという基本姿勢は変えずに、今年度も多くの方々のご協力を得ながら頑張っていきたいと思っています。 (濱野 徳子)

### ◆中学生の卒業祝いを兼ねたお花見&バーベQ

4月5日(日) 中学生の卒業祝いを兼ねたお花見&バーベキューをしあわせの村で行ないました。予想に反して、残念ながら桜はほとんど咲いていなかったのですが、とてもよい天気、学習者、支援者など参加者40名がバトミントンやアスレチックなどそれぞれ遊びを楽しんだ後、5テーブルに分かれてバーベキューを楽しみました。

参加した学習者から、感想をいただきましたので、掲載させていただきます。

4月5日にKFCの人たちとバーベキューをしました。しあわせの村でしました。KFCの女の人は材料を準備しました。僕は炭を扇ぎました。その間に皆は遊びに行きました。材料の野菜や肉が準備できたので、皆はバーベキューを食べました。バーベキューを食べている途中に、志岐さんは写真を撮りました。少し休憩をしました。その後、皆は野球やバドミントンをしました。他の人は景色を見ました。

僕の感想は面白い1日でした。僕はその日のように、面白いバーベキューがまたしたいです。  
(グエン フウ ホアン)

---

## ■■■ ハナの会 ■■■

### ◆お花見に参加して

桜の下でおいしいお弁当！のはずが、あいにくの突然の雨のため、急きょ県庁の13階展望室での開催になりました。私たちは神戸大学の学生ちんどん屋です。派手な着物に楽器を持って、ちんちんどんと桜に楽しい音楽を添えにやって参りました。

我々も雨に降られ、ハルモ二達も相次ぐ移動に長い待ち時間も手伝って少しテンションが下がり気味です。でもそこは、さすがの理事長。「こうなったらトラブルを楽しむしかない!」。その言葉とハルモ二の「そうやね」の言葉に我々も元気をもらい、なんとか展望室にたどり着きました。(県庁は階段が多くてたいへんでしたが)

おいしいお弁当をいただいて、おなかもいっぱいになったころ、あら不思議。あんなに土砂降りの雨がやんでしまいました。新緑の六甲山ときらめく海を眺めながらのんびり。せっかくのお出かけです。デイでゆっくりしていた方がよかったなんて、ハルモ二達に言われたくありません。職員さんの笑顔と、お弁当でいい感じになってきたところで、さあちんどんの時間です。下の階の統計課さんにお断りを入れて上がってくると、皆さんがずらっと並んで待っていてくださいました。ハルモ二達の胸をお借りして、青い山脈にリンゴの唄、昨年来させていただいた時のリクエスト曲、芸者ワルツに籠の鳥。ハルモ二と職員さんの歌声と手拍子が響きます。今回練習してきて初挑戦の南京玉すだれも温かく見ていただき、本当にありがたかったです。最後はもちろんアリラン。ハルモ二の踊りは見事でした!桜はなけれど、みんなの笑顔の花が確かに咲きました。(神戸大学震災救援隊 関優里香)

### ◆ハナ介護サービス開設

#### 居宅事業、訪問事業開始のご案内

ハルモ二たちの老後の充実を一層図るため、居宅介護支援事業と訪問介護事業を始めることになりました。

ご家族やお知り合いで、家事援助、通院介助などが必要な方がいらっしゃいましたら、ご紹介ください。

#### ハナ介護サービス

##### ■居宅介護支援事業所

開設時間 平日8:30~17:30

TEL 078-646-8671 Fax078-612-3052

##### ■訪問介護事業所

TEL 078-646-8670 Fax 078-612-3052

※ヘルパー募集!詳細は上記へお問い合わせください。

---

■■■ 今後の予定 ■■■

■ KFC総会

6月13日(土) 14:30~15:30

■ 研修会

6月13日(土) 13:00~14:30

「日系ブラジル人社会を訪ねて」

山本 晃輔(大阪大学大学院)

於 デイサービスセンターハナの会

■ 多文化子ども共育センター開所式

5月31日(日) 14:00~16:00

於 多文化子ども共育センター

■ 日本語能力検定試験 2級合格目標クラス

7月11日(土) ~11月28日(土) 13:30~:16:30

■ 日本語ボランティア養成講座

(初心者コース)

5月16日(土) ~10月17日(土)

13:30~16:00 於 アスタくにつか4番館